



フリーライター 大山 顕さん



大学院医学研究院 中山俊憲教授

世界最高水準の研究・人材育成基盤 グローバルCOEに 2プログラム採択

千葉大学では、物理学「有機エレクトロニクス高度化スクール」(大学院融合科学研究科 上野信雄教授と、医学「免疫システム統合治療学の国際教育研究拠点」(大学院医学研究院 中山俊憲教授)の2つの分野で「グローバルCOEプログラム」に採択されました。拠点リーダーとしてそれぞれのプログラムを推進している上野教授、中山教授に、今回の採択についてお話をうかがいました。



大学院融合科学研究科 上野信雄教授

● **免疫学とはどのような学問ですか?**
免疫学は20世紀の後半に新しくできた学問です。それまでも感染症といった外から身体に入ってくるウイルスや細菌についての学問はありましたが、身体を防御する免疫システムを専門に扱った研究はありませんでした。免疫システムとは、色々な細胞や分子、遺伝子といったプレイヤーを組み合わせて外部からの異物を排除するシステムのことを指します。分子生物学や胚工学の進歩により、ここ10年ほどでプレイヤーの種類や働きについての研究が進み、免疫システムの理解が飛躍的に深まりました。その成果を基に治療方法を探すが、今回採択されたプロジェクトです。

● **完治方法を探る研究ということですか?**
そうです。今までアレルギーは、対処療法によって症状を抑えることができておりましたが、完治できない疾患でした。そのような疾患のことを「難治免疫関連疾患」と呼びますが、その「根治療法」を探る研究です。

● **今回のプロジェクトは千葉大以外の機関と連携して推進していくようですか?**
基礎研究機関の理化学研究所免疫アレルギーセンターと、国内随一のがん放射線治療施設である放射線医学総合研究所と連携して推進していきます。これにより、学生は最新の研究成果を学ぶことができ、同時に放射線治療と免疫システムの連携によるがんの根治療法について研究を進めることが可能になります。このような連携体制を実現したこともCOE採択の理由の一つです。

● **世界における日本の大学の競争力はどれくらいものなのでしょうか?**
日本の国力と人口規模からは50くらいは世界と競争できる大学があつても良く、そう考えるとまだまだレベルは低いと言わざるを得ません。大学の高度化には博士課程の院生は不可欠ですが、日本では経済的に自立できないこともあり、博士課程への進学者が少なくなつてきています。欧米では院生を経済的に支援して彼らを支えています。同じこと

● **免疫学における千葉大の強みとは何ですか?**
日本の免疫学はアメリカに次いで高レベルにあります。中でも免疫学とがん研究を得意とする千葉大の強みは、研究に終始せず基礎研究を基に安全で有効な新しい治療方法を開発する「治療学」にあります。この「治療学」という概念も今回のプログラムで確立しようとしています。

● **「治療学研究者の育成」もプロジェクトの柱ですね。**
外国から教授や大学院生を招聘して一緒に研究をしたり、通常は博士課程を終えた後に行うポストドク(注:海外留学のこと)を大学院生のときから実施したりすることで、国際的に通用する研究者を育成していきます。

● **「グローバルCOEプログラム」について教えてください。**
国家の最高教育研究機関であるというのが大学の位置づけです。この基本に照らし合わせ、日本の大学が世界のトップレベルの大学と競争し得る研究および教育を行うっていくために国が支援する、それがグローバルCOEプログラムです。採択されるためには、世界トップクラスの研究を推進することが必要条件で、その雰囲気の中で国際的人材を育成するというのが十分条件になります。

● **そこまで成長したポイントは何なのか?**
何か問題があるとき、多くの場合、本当に大切な原因を探り当らされていないのではないのでしょうか。この結果、対処方法を見極められずにブリーズしてしまいがちです。

● **問題の真の原因を見極めるということも大切ですね。**
かつて、なかなか進まない学生支援プログラムがありました。応募書類が複雑すぎたり、入手方法が不案内であることが原因のひとつでしたが、ホームページを利用して案内するようになってからはよくあることです。どんなにすばらしいプログラムでも、受け取る側にならなければいけないのは機能しません。原因を見極め、できることから取り組み、活動を継続させること。これは研究活動や人材育成をはじめ、どんなことにも言える基本的なことなのです。



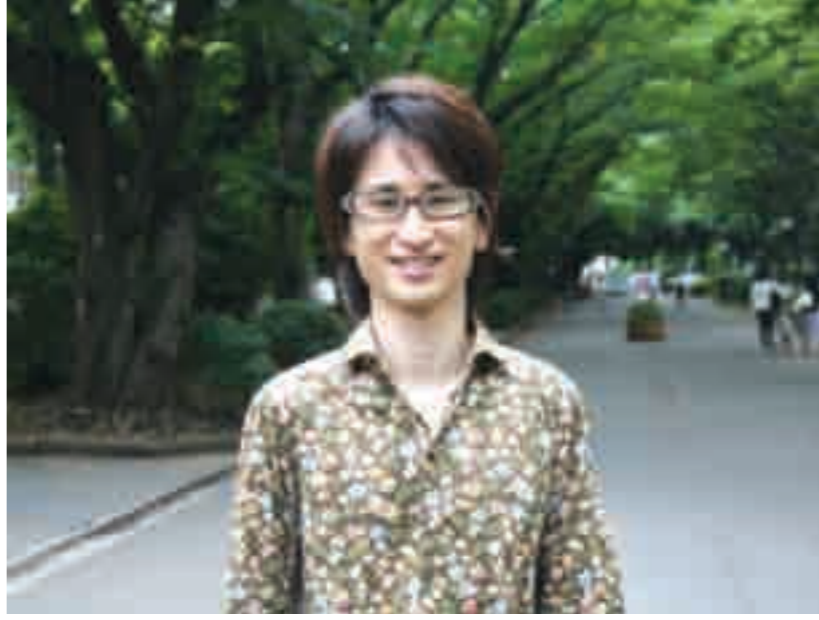
最新刊「団地の見聞」(東京書籍 1995年)
高品質な団地写真を、笑いながら楽しめるものにした自信作。
48の団地が収録された、10年に及ぶ活動の集大成です。



「団地の見聞」で紹介されている宇喜田住宅。
おでき(?)が特徴です。よく見ると団地としてよくユニークな形をしているんです。

● **「団地の見聞」では見聞という言葉を使っていますが?**
「見聞」はほくがっつた造語です。柘植先生の授業で、亀戸の再開発を学んだときに、「とにかく行け!」と言われ、一ヶ月間現地でフィールドワークをしたことがありますが、そういう授業からよく見たら、気になるものをちゃんと見ることでできるようになったのだと思います。まず「ちゃん」と見るのが重要で、難しく考えず面白ところから始めるのいいと思います。この言葉を使っています。

● **次をやってみようとは何ですか?**
2007年から工学部の八馬先生と一緒に仕事させていただいているのですが、工場見学などで、大人が見て当たり前と思うようなことをやってみよう。例えば、いまは安全上の問題で見学できないような、稼働中の現場等を回るツアーなどが実現できたらいいですね。ドイツにベッヒャーという写真家がいるのですが、彼の写真は、撮影者の主観をなくした客観的な表現方法を用いて、見る人に大きなメッセージを送り続けています。ぼくの行動が、いつかそういう方向で役に立つことができればいいと思います。



● **後輩の学生にひとことお願いします。**
ぼくは、学生時代ずっと研究室にいました。土日も夏休みも、時には年末も。大学は職業訓練校ではないし、時間をタラタラす(して)もいい。どんなことでもいから、何か熱中できることを見つけてくれるといいと思います。自分が最高点に達したと思った時、その先さらに、もっとすごいことがあると気づかされるはず。

● **後輩の学生にひとことお願いします。**
ぼくは、学生時代ずっと研究室にいました。土日も夏休みも、時には年末も。大学は職業訓練校ではないし、時間をタラタラす(して)もいい。どんなことでもいから、何か熱中できることを見つけてくれるといいと思います。自分が最高点に達したと思った時、その先さらに、もっとすごいことがあると気づかされるはず。

TOPICS 黒木知宏さんが やってきた!

NHKスポーツセミナー in 千葉大学



黒木さんとNHK熊崎ナウンサーとの対談形式で行われました。

「魂のエース」ジョニーをご記憶ですか? 現在プロ野球解説者としてご活躍中であり、現役時代にも最多勝・最高勝率など数々の賞を獲得、日本代表としてシドニー五輪にも出場された元千葉ロッテマリーンズ投手「ジョニー」こと黒木知宏さんが、6月24日の来学されました。このセミナーはNHK千葉放送局の協力により、西千葉キャンパス総合校舎B号館で行われ、約200名の学生を前に、黒木さんから「スポーツとの出会い」をテーマに、野球を始め、きっかけ、甲子園・社会人・プロ時代まで、学生との質疑応答を交えながら90分間講演していただきました。学生から「54番は、誰に継いで欲しいですか?」

「信頼できるリーダーになるには?」「プロフェッショナルとは?」など様々な質問があるなかで、「黒木さんの話を聞いて、一歩踏み出すには勇気が必要と感じました。その一歩を踏み出すためにはどうすればいいのでしょうか?」という質問には、「一歩踏み出す必要はないとわからない、迷ったら前に出て、とにかく前に出て!迷ったらまた探せばいい、とにかく迷ったら前に行きましょう!!」という熱い答えを返してくださいました。

黒木知宏公式HP <http://www.johnny54.com>
R.A.M.Sports <http://www.r-amsports.com>

CHIBADAI People

看護師のみなさん 総合安全衛生管理機構



こんにちは皆さん! 私たちのいる総合安全衛生管理機構は、学生の皆さん、職員の皆さんの環境面と健康面の安全をサポートしています。ここには、私たち看護師のほか、医師・検査技師などがいますので、一般診療(健康相談、初期治療)のほか、健康診断、健康診断証明書の作成も行っています。また、身長・体重・視力・血圧・体脂肪等の自動計測器もありますので、ご自分の体調管理に役立ててください。総合安全衛生管理機構とむずかしい名前ですが、お医者さんのいる「保健室」と思って、心身の不調を感じることがあったら、早めに相談に来て下さいね。皆さんがいつも笑顔で過ごせるよう、私たちもいつも笑顔でがんばります。(左から 生稲直美さん、丹谷鈴子さん、吉田智子さん)

全員がひとつのクラス

医学部は全員がひとつのクラス。6年間同じ仲間と一緒に授業を受けるのですが、アットホームな雰囲気であらゆる仲良しです。緑豊かで落ち着いた亥鼻キャンパスでは、看護学部や薬学部と交流も深く、部活動や亥鼻祭にも一緒に取り組んでいます。昨年からは、医学、看護学、薬学の医療系3学部が中心となって、医療にかかわる様々な職種の連携(チーム医療)の推進を目指した教育プログラムがはじまっています。

下山恭平さん 医学部 医学科4年

日本で最も伝統ある

100年以上の歴史を持つ日本で最も伝統のある薬学部ですが、温かく伸び伸びとした雰囲気の中、皆、講義や研究に日々真面目に取り組んでいます。魅力的なのは、研究分野、医療分野共に広く学べるという点です。総合大学であることを活かして、医学部や看護学部と連携して学ぶ講座もありますし、これからの薬剤師のあり方、研究の面白さ、海外の研究事情など、幅広い視野を身に付けられるのも、活躍の場の広い薬学部だからこそだと思います。

黒江由佳乃さん 薬学部 総合薬品科学科4年

密接な人間関係

行動科学科は1年次に様々な分野の勉強をし、2年次に心理、認知、哲学、社会学、文化人類学の専攻に分かれます。元々他学部 비해人数が少ない上にさらに人数が絞られるので、専攻内で先生と生徒、先輩と後輩の垣根を越えて密接な人間関係を作ることができます。そのため相談もしやすく非常に恵まれた環境で勉強ができます。文学部棟は今年改修され、来年からきれいになった校舎で学ぶ後輩たちが少し羨ましいです。

入内澤景吾さん 文学部 行動科学科4年

全国トップクラス

千葉大学教育学部は、全国でもトップクラスの教員正規採用率を誇っています。学生は、恵まれた環境の中で充実した授業を受けることができ、さらには介護等体験や附属学校での「教育実習」で実践力を身につけることができます。高い志を共有する仲間たちと共に学び、熱心な先生方に指導を受ける、千葉大学教育学部は教員になるために必要な力をつけるのに最適な場所です。

北村 航さん 教育学部 中学校教員養成課程1年

アクティブに動き回る

第一線で活躍されている先生方の教育は、既存の方法とは異なり、今の社会問題からそれをどう生かすか考えさせる課題が多く、多角的な視点を養うことができます。所属する学科の授業に加えて他学科の授業も履修可能で、学科の壁を超えてたくさん仲間をつくるができます。大学という枠に留まらず、学生時代からアクティブに動き回る人が多いことが、工学部の特徴です。

成木恵理子さん 工学部 都市環境システム学科4年

CHIBADAI

9学部からなる総合大学です

国立大学唯一

国立大学唯一の園芸学部は100年の歴史があります。園芸と聞くとイメージが湧きにくいと思いますが、遺伝子などのミクロの世界から生態系といったマクロの世界まで学ぶことができます。また各学科も自分の好きなコースに進むことができます。漠然と環境について学びたい、生物に興味がある、そんな人もきっとやりたいことを見つけられる学部だと思います!

大久保篤さん 園芸学部 緑地・環境学科4年

新しい入試、始めます。

理数大好き学生の 発掘・応援プロジェクト

この入試は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)活動や課外活動などで優れた自由研究を行った人で、現役生と一浪生が応募できます。対象となる学科は、園芸学部の全学科、工学部のメディカルシステム工学科とナノサイエンス学科、理学部の生物学科です。この入試で入学した学生には特別カリキュラムが用意され、授業はいずれも少人数、第一線級の教員がきめ細かく指導し、自力で研究できる能力を養います。現在、このプロジェクトを受けている先輩たちに話を聞いてみました。



理学部生物学科2年
高田俊太郎さん

— 生物学科ではどのようなプログラムを行っているのでしょうか? —

5名の学生が選ばれて、1年生の10月からプログラムがスタートしました。普通のカリキュラムにプラスして特別授業を履修します。1年生の時には主に実験を行いました。通常の実験ではレポートを書くだけに留まるところを、特別授業の実験ではデータをどう読むかといった今後の研究に必要な技術を教えてもらうことができます。所属研究室も他の学生よりも半年早く3年生の中ごろに決定します。また、特別な自習室があってパソコンも自由に使うことができます。

— このプログラムに応募した理由を教えてください。 —
高校生の頃から生物が好きで、大学では生物学の中でも医療分野に近い研究をしたいと漠然と思っていました。4月のガイダンスの時にプログラムの概要を聞いたのですが、将来研究者になるために有利なプログラムだと思って志望しました。

自分の可能性を探る

法経学部では様々な学問領域を学ぶことが出来ます。例えば法律等の特定分野に絞って専門知識を思う存分深めることも、法律に加えて政治や経済、政策論等を学び、幅広い分野の講義を受講して多角的な視野を持つ事も、自分の目的に合わせて自由自在です。スペシャリストの様な学生を目指すのか、あるいはゼネラリストの様な学生を目指すのか一現代社会の問題を考えながら自分の可能性を探れるのが法経学部の魅力です。

木下瑛子さん 法経学部 法学科3年



草分け的存在

30年以上の歴史を誇る、国立大学唯一の看護学部は看護系大学の草分け的存在です。先生方の多くが看護学部の卒業生でもあり、私たちのことを単なる学生としてだけでなく、同じ大学で学ぶ後輩としても想って下さり、その時々にあった適切なアドバイスをして下さいます。そんな先生方の熱心な指導の元で、高い目標を持った仲間たちと共に日々成長を感じ、充実した大学生活を送ることが出来ます。

中村綾香さん 看護学部 看護学科2年



未知の現象を明らかに

理学部は、5学科すべてが少人数制、学生間の繋がりが強いことが特徴です。生物学科は、フィールドワークが授業に組み込まれているため、小湊の実験場では日常目にする事のない海辺の生物と触れ合うことができます。私は今、酵母を用いて細胞サイズを決める要因の研究を行っています。時々失敗することもあります。未知の現象を明らかにするという楽しさを、毎日感じながら実験しています。楽しみながら勉強できる、それが理学部の魅力です。

永野 愛さん 理学部 生物学科4年



— 将来はどんな研究者になりたいですか? —

大学に入って思うことは、高校の教科書はキレイに作られている、ということです。最先端の研究では実際はまだ分かっていない部分があったとしても、高校の教科書はすべてを事実のように断定して書いている気がします。そのような「本当はまだ分からない」部分に触れることができるのが大学の研究の醍醐味だと思います。自分の研究分野を見極め、好きという気持ちを持ってその分野に取り組むような研究者になりたいです。



工学部メディカルシステム工学科2年
山岡輝正さん

— 「メディカルシステム工学」とは何ですか? —

工学部と医学部の中間のようなものです。医療行為で使われる道具の研究や、MRIなどの画像処理をするプログラミングを開発する、義手を作る、血圧が上昇すると自動的にナースセンターにコールが入るようなシステムを構築するなど、研究分野は多岐に渡っています。

— どのように選抜されたのですか? —

1年生の夏に“どういことを研究したいか?”という面接を受け、5人選抜されました。僕は手術で使う機械について研究したいと思っていたので、その熱意を伝えました。

— どのようなカリキュラムなのでしょう? —

5人一人ひとり違うカリキュラムになっています。僕の場合には、自分が所属している学科とは別にフロンティアメディカル工学研究開発センターの先生にも教えてもらっています。その先生のところでは、手術で使用する機械の実験としてブタの解剖を行いました。

— 普通のカリキュラム以外にも特別授業があると忙しくないですか? —

学生の自主性に委ねられているので、自分が興味を持って率先して先生にアプローチをしない限りは忙しくなることはありません。でも、せっかく選抜されたのだから有効に活用しないと意味がないと僕は思っていますし、1年生の段階で専門的なことを先生がつきっきりで教えてくれるのでとても有意義なプログラムだと思います。専門的なこと以外でも、自分が要求すれば例えば論文の読み方なども教えてもらえたりします。僕は毎週火曜日に定期的に読書会をもらっています。

CHIBADAI Circle

看護学部唯一の公認サークル「舞部」

活動テーマは「health & beauty」。【舞部】はみんなで楽しく、かわいく踊ること心身ともにリフレッシュ、見てくれる人たちも「Happyにさせちゃおう!!」という部活です。2004年にサークル活動を始めてから、オープンキャンパスや亥鼻祭などで演舞することを主な目標として、チアダンスを中心に、ソーラン節や流行りのダンスなど幅広いジャンルを、自分たちでアレンジして踊っています。先輩はキレイな人ばかりで、舞部に入ったらキレイになれるかも!? 部員は27名ですが、ダンス未経験者ばかりなので、ダンスに自信がなくても楽しめます。ダンスだけでなく、ダイエットに役立つことをやってみたり、ガールズトークを楽しんだり、女の子だけの部活ならではという活動をしています。これからも踊りを見てくださる皆さんに感謝しながら、先生方の学会や、いろいろなイベントへと活動場所を広げて、看護学部のパワーを皆さんにお届けしていきます! 皆さんもぜひ一緒に踊りましょう!!



選抜方法などは各学科によって異なります。詳しくは各学科ごとに用意されている募集要項もしくはホームページをご覧ください。 <http://risuouen.chiba-u.jp>